

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>学校理念</p> <p>「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ学校</p> <p>育てる生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高い教養と豊かな感性を持った次代のリーダー ● 未来を切り拓くタフでアクティブな人材 	<p>教育方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「鍛える」 心力、体力、知力を鍛える 2. 「見守る」 十人十色の個性を磨き、成長を見守る 3. 「高める」 豊かな教養・国際感覚・人権感覚
--	--

2 中期的目標

<p>1. 学力を伸ばす</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織的な授業研究の推進 「考える力の育成」「双方向の授業」 (2) 新たな教授方法や教材の開発、外部資源の活用 (3) 3年間の学習目標と計画の策定 「基礎基本の徹底」 (4) 学力把握と分析による戦略的推進と全体化 (5) テンミニッツの推進 自己鍛錬力の向上 (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実 (7) ICTを活用した授業づくり (8) 大学入試制度改革に向けた準備と対策 		<p>3年後の寝屋川高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ● センター試験 8割正答 30名 ● 国公立大学合格 100名 ● 部活動加入率 100%、多数近畿大会出場 ● AL等考える力を育む授業 全教科で実施 ● PDCAサイクルの定着率 70% ● 授業満足度「強く肯定」 50% ● 自主学習時間 平均2時間以上 ● 生徒の安心感 60% ⇒ 70% 以上 ● 勉強と部活動の両立 57% ⇒ 66% ● 生徒の遅刻数 1000件以下 ● 学校に対する誇り 強く肯定 50% ● 保護者の満足度「強く肯定」 50% ● 教職員の学校目標共有と協働 70%
<p>2. 21世紀型能力の育成 …… タフでアクティブな実践力</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的、能動的学習の確立 「アクティブラーニングの導入」 (2) 部活動の積極的推進 「上級生の指導力の向上」 (3) コミュニケーション能力の育成 「課題発見・解決能力」 (4) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営 「自主自立」 (5) 先進的な課題研究への取り組み 「知的好奇心」 (6) 豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進 (7) 文化活動、読書活動の積極的推進 (8) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨 		<p>3. 学校力のパワーアップ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新しい組織の構築と横断化・全体化するためのシステムづくり (2) 質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの浸透 (3) 個々の教職員の強みを活かした組織運営 (4) 各組織の目標と責任の明確化と組織リーダーのマネジメント能力の向上 (5) マンパワーの結集とチームの一体化 (6) 職員研修の充実による教師力の強化 (7) 進路ガイダンス機能や教育相談機能の充実 (8) 学校広報と情報発信の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見																				
<p>【生徒編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 質問全 15 項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が 80%を超えた質問は、平成 26 年度が 6 項目、平成 27 年度が 10 項目、今年度は 12 項目と着実に増加している。 ○ 昨年度から所謂「肯定的回答」の割合よりも、「強くそう思う」と肯定する回答の割合に拘るように舵を切ったが、「強く肯定」の割合が 30%以下であった項目が、平成 26 年度が 8 項目、平成 27 年度が 4 項目、今年度は 3 項目と強く肯定する生徒も着実に増加している。 ○ 中でも「質問 1：入学してよかったと満足」について強く肯定した生徒が 55%となり、昨年度よりも 2 ポイントであるが年々上昇している。成功や失敗を体験させる学習活動や生徒が自己実現できる機会を重視する教育方針の徹底によるものと思われる。 ○ 強く肯定した生徒が 30%以下であった項目は、「質問 6：健康の保持増進・安全対策」「質問 12：部活動と学習の両立」がともに 23%で、「質問 11：計画的に家庭学習する」が 29%となっている。しかしながら、質問 6 の健康・安全については H26 年度の 16%からは着実に増加してきている。保健室が中心となって健康教育については様々な取り組みを行っているが、防災教育等安全面における取り組みが足りていないという結果ではないかと考えている。 ○ 質問 11 や質問 12 の回答結果から「主体的に学ぶ」という点で課題を感じる。今後も日常的な「授業の創意工夫」によって生徒が授業で鍛えられ、自信とさらなる高みに向かう意欲へとつながる一連の学習サイクルを定着させていきたい。 <p>【保護者編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全 15 項目のうち「①そう思う」と 30%以上の保護者に強く肯定してもらえた項目の数が 11 項目となった。H26 年度は 5 項目であったことに比べると着実に成果を上げている。 ○ 学校評価の最重要事項である「15. 入学させてよかったと満足している」という質問では、強く肯定いただいた保護者の方が遂に 60%を超えた。毎年積み上げていった改善や教職員一丸となった熱意溢れる教育の営みが評価されたものであり、寝屋川高校の質の高い日常を認めて頂いたものとありがたく受け取りたい。 ○ H27 年度「①そう思う」と強く肯定していただいた数が 20 パーセント以下であったの「学習指導」「健康指導」「施設設備の整備」については今年度、それぞれ 4～6 ポイント増加した。特に学力向上についてはまだまだ満足いただけていない点があるようだ。この原因について深掘するとともに改善策を講じていきたい。 ○ 学校は「人間力を育もうとしている」とご理解いただいた保護者がほぼ 90%となり、「部活動に参加して子どもは成長した」と強く肯定いただいた数も 57%と半分を超えた。学校としては「教育方針の浸透」や、「寝屋川高校の存在感」を大きく賛同いただいたものとしてこの方向で邁進していきたい。 <div data-bbox="268 1929 1003 2398"> <table border="1"> <caption>入学させて満足している</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H27</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>60%</td> <td>55%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>45%</td> <td>35%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>【教職員編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「①そう思う」「②どちらかと言えば」を合わせた肯定的回答が増加した項目が 11 項目であった。しかし、減少した項目も 3 項目ある。質問 1 の「全員で協働」や質問 2 の「PDCAサイクルの浸透」については、強く肯定は増加しているが、やや肯定が減少した結果となっている。これは、定年による大量退職期となり今年度 14 名の新転任者を迎えたが、この間取り組んできた学校改革の理念や方向性など、より丁寧に共通理解と合意を図る必要があったのではと反省している。 ○ 「11. 指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」という質問に対しては 99%が肯定するという高い数字となっている。このことは授業研究の取り組みな 	項目	H28	H27	H26	1	60%	55%	55%	2	45%	35%	35%	3	5%	5%	5%	4	5%	5%	5%	<p>【第 1 回】 5 月 27 日 テーマ：昨年度の検証とビジョン 28 について</p> <p>1. 昨年度の検証と課題認識</p> <p>(1) 学力向上を目指した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業研究については、学校の課題に応じたテーマを設定し、それぞれのグループで意見交換することによって課題や解消に向けた方向性が共有できた。 ② 学習意欲とできた感を高める工夫をそれぞれの授業者が積極的に取り組まれた成果として、生徒の授業アンケートや教員の授業振り返りシートからうかがえる。 ③ 家庭学習時間の増加については特に 1 年生の入学後夏休みをどう過ごさせるかに引き続き課題意識を持って取り組んでいただきたい。ICTを活用した「テンミニッツ」を更に発展させる知恵を集めることも平成 28 年度の課題ではないか。 <p>(2) 21 世紀型能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 先生方の生徒への関わりによって遅刻の数は大きく減少した。今後は自分の行動に自分の判断と責任、主体性を持たせる指導も大切ではないか。 ② 欠席が多いことが気になる。 ③ 部活動や行事を通じて鍛えられることが生きる力となって身につけることはとても大切なこと。 <p>2. 「校長ビジョン 28」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 課題の共有と戦略の徹底 ② 成果の全体化と機運 <p>良い風評が取り巻き始めているようだが、広報活動の成果、口コミの成果と思われる。取り組まれている方向性や日々の実践など学校全体が自信をもってさらに進めてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 欠席の多さや学校生活に深刻な困り感を持つ生徒への対応教育相談体制のさらなる充実と強い精神力を育む取り組みや仲間同士が支え合う環境づくりにも取り組んでいただきたい。 <p>【第 2 回】 10 月 14 日 テーマ 前期の振り返りと後期に向けた提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学力向上、授業力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定した公開授業 今年度は「発問の工夫」 ・外部資源を活用した模試分析会 教員全員で生徒の学力・意識を共有 ・スタディサポートと第 1 回模試の資料を提示して教員の意識調査を実施 ●レジリエンス教育と教育相談体制 <ul style="list-style-type: none"> ・逆境から立ち直る力を養う教育 生徒の現状から必要を感じる ・6 月に教職員向け研修 9 月に 1 年生対象の研修 予防対策として ・教育相談件数は過去 3 年増加 早めの対応の結果と考えられる ●ICT を活用した「テンミニッツ」 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日 SHR の 10 分間、送信された問題に取り組む ・2 年生が 7 月に受けた模試の結果が良好 テンミニッツの成果か ・本校の取り組みに視察、問い合わせが多数 大阪府公立高校のトップランナーの自覚 ●修学旅行 ベトナムと東北方面 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスごとではなく生徒の希望選択制 ベトナムと東北 ・ベトナムに 280 人 学校交流、日本企業訪問で大きな成果 ■後期教育活動への提言 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 生徒の心の変化に気づくことができる教員力を高める工夫を学校として進めてほしい ➢ 学習に役立つコンテンツは容易に手に入る環境になってきた。どう活用するかが課題 ➢ 修学旅行については、時期を考える必要がある 10 月は台風のリスクが高い ➢ 「人の何が大切だと考え、それをいかに育てるのか」寝屋川高校ほど教育を語る上で語り甲斐のある学校はない。学力・体力・精神力を鍛えながら心豊かな人間を育む学校として大いに期待している。
項目	H28	H27	H26																		
1	60%	55%	55%																		
2	45%	35%	35%																		
3	5%	5%	5%																		
4	5%	5%	5%																		

<p>ど生徒に対する様々な指導の場面で熱意だけではなく専門家としての創意があらこちらに見受けられる学校になったとすることができるように思っている。</p> <p>○ 着任当初、課題と認識した「目標の共有」「協働」「PDCAサイクルに沿った改善志向」については、「組織の改編」や「年度ごとの校長ビジョン」「アクションプランと振り返りシート」などの新たな仕組みと仕掛けが、コアリーダー及びその周辺のフォロワーによって円滑に運営されだした証だと考えている。個人商店的な運営から分厚い層が組織運営を行う学校に変貌したと言えるのではないか。</p> <p>○ しかしながら、まだまだ課題も散見される。「人権教育体制」「各教科での十分な議論」「生徒と向き合う時間の確保」において、昨年度に比べると微増となっているが、強く肯定が20%に達していない。人権教育体制については今年度から実施した「人権探究学習」を中心に3年間の計画を再構築していきたい。また、教科会議の在り方についても、生徒の学力向上にとって最重要課題と認識し、どう研究開発室と連携を深めるのか策を講じていきたい。</p> <p>○ 学校を取り巻く環境の変化に適切に対応するためには、「去年と同じ」前例踏襲型では立ち行かない事も多い。そういう意味で「チェック」と「新たなアクション」を目標と照らし合わせながら積み重ねていくことは意味が大きい。我々の営みが、どう生徒へ教育効果を及ぼしているのか真摯に向き合うことによって学校は力を増していく。次年度以降も全ての職員にとってやりがいを感じ、高い当事者意識とチームの一体感という文化を育てながら衆知を集めた全員経営に努めていきたい。</p>	<p>➤ 教員の定年退職など入れ替わりが多い中で学校目標など共通理解を深める工夫が必要。</p> <p>【第3回】 1月23日</p> <p>テーマ (1) 授業並びにテンミニッツの見学 (2) 平成28年度の検証と平成29年度学校経営に向けた提言</p> <p>●授業見学 (AVホールで2年生「地理」の授業を見学)</p> <p>➤ ICTをうまく活用しテンポよく授業を進められていた。</p> <p>➤ 生徒は集中して授業を受けていた。</p> <p>➤ 何のためにICTを活用するのか、活用することで生徒にどんな成長がみられたのかを検証し、さらに授業づくりを進化させていって欲しい。</p> <p>➤ ALの要素をとりこむことと所謂受験学力を高めることを別物ととらえることなく思考力、表現力を育てる授業研究に今後も取り組んでいただきたい。</p> <p>●平成28年度の検証と平成29年度に向けた提言</p> <p>➤ 学校教育自己診断からは着実に成果が上がっていることが伺える。</p> <p>➤ 遅刻もこの数年で大きく人数が減少したことはすばらしい。</p> <p>➤ 教員が生徒との関わりを大切にすると雰囲気や学校に根付き、生徒の間にいい信頼関係が築かれているのだろうと思う。このことが保護者の信頼や安心感につながっているのだろう。</p> <p>➤ テンミニッツの取り組みについて、更なる充実を目指して今後タブレットの使用が家庭学習充実への起爆剤となり学力向上にどう番っていくのか注目している。</p> <p>➤ 今年度新しくはじめられた人権探究学習は今後の広がりを感じる良い取り組みだと思う。生徒の意識にも効果が読み取れるが、教員の回答が低いのは何が原因なのか。しっかりとリサーチすべきだと思う。一つの学年が実施しているということで全体化が弱かったのではないか。</p> <p>➤ 欠席者数の多さが気になる。どこに原因があるのだろうか。身体的にも精神的にもしっかりと鍛え、社会で逞しく生き抜く力を身につけさせてほしい。</p> <p>➤ 生徒の期待感や承認欲求をどのように満たしてやるのか、このことと寝屋川高校のブランド力と存在感を高める取り組みをリンクさせて考えてみてはどうか。何事にも意欲的で元気な人間を育む学校として大いに期待している。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>学力を伸ばす</p>	<p>(1) 教科で意思統一された教育計画</p> <p>(2) GPの共有をめざした研究会 振り返りシートの活用</p> <p>(3) 自主的自律的授業見学</p> <p>(4) 授業研究会の充実</p> <p>(5) 学力向上戦略会議</p> <p>(6) 先進事例学校訪問</p> <p>(7) 家庭学習時間を増加させるための 仕掛けづくり</p> <p>(8) テンミニッツの推進と充実</p> <p>(9) ICT学習環境の整備と充実</p> <p>(10) 学習と部活動の両立</p>	<p>(1) 教科主任とのヒアリング、統一用紙</p> <p>(2) 前年度授業振り返りシートから5つの部門ごとのGP公開授業</p> <p>(3) 全員年間4回、報告書提出</p> <p>(4) 授業公開、授業研究会、外部講師による授業見学会など</p> <p>(5) 学習コーディネーターが主導する模試分析会や戦略会議の充実</p> <p>(6) 特色ある4校(未定)への訪問</p> <p>(7) スクールダイアリーの活用</p> <p>(8) テンミニッツ推進委員会を発足</p> <p>(9) 普通教室へのプロジェクター設置</p> <p>(10) 夏季休業中の部活+講習</p>	<p>(1) 4月に実施</p> <p>(2) 前期に2回、後期に1回</p> <p>(3) 「参考に自分でも試みた」80%以上</p> <p>(4) 年間6回実施</p> <p>(5) 前期後期各2回以上実施</p> <p>(6) 4校へ20人派遣</p> <p>(7) 家庭学習時間平均90分以上</p> <p>(8) テンミニッツ「良かった」が75%以上</p> <p>(9) プロジェクターの活用率</p> <p>(10) 生徒アンケート「強く肯定」が18%(27年度)</p>	<p>(1) 4月、8月の2回実施 <○></p> <p>(2) 前年度指導力の高かった教員を指名し公開授業と授業研究会を実施(6月、11月) <◎></p> <p>(3) 授業見学週間を前期・後期に設定、報告書を「気づき発見シート」に変更—これを研究開発室がまとめて全体化 <◎></p> <p>(4) 年間授業公開を4回、校内研究会を2回実施 1月には大教大の木原教授に助言いただいた<○></p> <p>(5) 各2回実施。出席者が昨年は10名(担任)程度だったのが平均20名を超えた。学習指導に戦略が浸透するようになってきた <○></p> <p>(6) 今年度テンミニッツの関係で大阪府以外から9校視察を受けた。</p> <p>(7) 家庭学習平均 70分 <△></p> <p>(8) 10ミニッツ良かった 65% <△></p> <p>(9) 教員の60%が活用した <○></p> <p>(10) 強く肯定 23% <○></p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">21世紀型能力の育成</p>	<p>(1) 生活規律の徹底 (2) 部活動のさらなる充実 (3) 学園祭、コーラス大会の伝統継承と発展 (4) 授業の工夫と改善 ・言語活動の充実 ・アクティブラーニングの進化 ・双方向の授業 ・考える力の育成 (5) コンテストやコンクールへの参加奨励 (6) 社会貢献活動の推進 (7) 国際交流活動の推進 (8) 人権学習の新たなスタイルの構築 (9) 健康と安全への意識の高揚 (10) 新しい研修型修学旅行の実施 学校の特色の一環 「ベトナムと東北」</p>	<p>(1) ・月間遅刻欠席数のアナウンス ・個別指導の徹底 (2) 部活動説明会の工夫 (3) 学園祭の準備期間の工夫 (4) ・授業GP学習会の実施 ・授業振り返りシートの提出 ・結果の共有 (5) ・授業から出展 ・部活動 (6) 寝屋川市と合同ブランド戦略 (7) 新たな語学研修の実施 (8) ・インターネットやNPOを活用した実践的学習「人権」「健康」 ・スパークレジリエンス教育の導入 (8) (9) 人権・防災など幅広い教養を身につけるための講演会の実施 (10) 特色ある海外研修修学旅行の計画</p>	<p>※ () 内はH27年度 (1) 遅刻総数 目標 1000以下 (2) 入部率 100%(95%) 同時に退部率の減少 近畿大会出場件数 (3) 生徒満足度「強く」 60%(52%) (4) 学習会年間4回、振り返りシート結果 平均値 80%以上 (5) 出展数と入賞者数 特に読書コンクールを重視 (6) 地域清掃参加 地域演奏会実施 ・体験 全校生徒5割 ・隣接小学校前で「挨拶運動」の継続 地域評議会の評価 (7) ハワイパシフィック大学との交流 (8) 人権学習の発展 学校教育自己診断結果 強く肯定 40%以上 (28%) (9) 健康への意識高揚 学校教育自己診断結果 強く肯定 30%以上 (23%) (10) 修学旅行満足度 強く肯定 50%以上</p>	<p>(1)年度末時点で 1114 <△> (2)71期生入部率 95% <○> 近畿出場 3部 (3)学園祭生徒満足度 強く 50% <△> (4)授業研究会、学習会 年間6回実施 振り返りシートを前期終了時に提出 100% それを基に後期授業改善につなげた 自己診断結果「改善に努めた」99% <◎> (5) ・各種作文コンクール多数入賞 ・情報科でコンテスト応募 文部科学大臣賞 ・美術部 コンテスト応募優秀賞 ・吹奏楽部 大阪府 金賞 ・クラシックギター部 全国大会 <◎> (6)地域清掃活動 全クラブが実施 <◎> (7)語学研修で交流実施 生徒20人参加<○> (8)人権探究学習の実施(新) ・LGBT、虐待、在日外国人、高齢化社会、ネット社会、障がい者、国際問題 レジリエンス教育の実施(新) 国際大学のホールにて1年生を対象に実施 長欠に陥る生徒減少 インターネットと人権 講演会(新) 強く肯定 43% <○> (9)健康意識 強く肯定 23% <△> (10)企画交流室が所管し学校の特色づくりの一環として全職員を巻き込んで議論し、新構想立案 修学旅行満足度 強い肯定 70% <◎></p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校力のパワーアップ</p>	<p>(1) 学校目標の共有と協働 ・共助と共同によるチーム一体化 ・報連相の徹底 ・生徒と向き合う時間の確保 (2) PDCAサイクルの定着 改善志向の浸透 (3) 教育相談機能の充実 ・教育支援カードの活用 ・ネットワークづくり (4) 職員としてのやりがいや自分の存在価値が確認できる職場づくり ・任される役割と責任 (5) 学校外との連携強化 (6) 計画的な教職員研修 (7) 学校広報活動の充実 (8) ICT機器の活用</p>	<p>(1) 会議の活性化とスリム化 ・各組織内役割と責任の明確化 ・前向きな議論と無駄を省く工夫 ・報連相の徹底とメールの活用 (2) アクションプランと振り返りシートの活用 ・組織目標と個人目標 ・アクションプランと振り返りシートを使ったヒアリング (3) 保健室と隣接した支援室の新設 (4) 安全衛生委員会の活性化 (5) 大教大、国際大、寝屋川市と協働した取組 教師志望人材の育成 (6) 人権教育、安全教育、教育相談、部活動指導、授業づくり (7) ホームページおよびチラシの充実 (8) 活用のための学習会を実施</p>	<p>※ () 内はH27年度 ■学校教育自己診断結果 (1) 「目標の共有と協働」 強く肯定 50%以上 (40%) 「組織の一体化」 強く肯定 50%以上 (40%) (2) 「PDCAサイクルの定着」 強く肯定 30%以上 (19%) (3) 「教育相談機能」 強く肯定 35%以上 (29%) (4) 安全衛生委員会 「職場アンケート」実施 (6) 年間5回実施 (7) ・HP更新頻度 概ね週に1回 ・カラーで見やすい、イパクトのあるチラシ作製 (8)年間2回実施</p>	<p>(1) 「共有と協働」 強く肯定 43% 「一体化」 46% <△> (2) 「PDCAサイクルの定着」 強く肯定 28% <△> (3) 「教育相談体制」 強く肯定 33% <△> (4)安全衛生委員会 10回実施 (昨年8回) 「職場アンケート」を実施し、結果を環境改善につなげた。 <○> (5)大教大教師の学び舎に参加 延べ人数 15人 <◎> (6)授業づくり2回、生徒理解2回、人権教育1回 <○> (7)概ね週一で更新 <○> (8)ICT利活用をテーマにした公開授業2回 <○></p>